

研究の名称

処方せん調剤を実施した患者における総抗コリン薬負荷値及び抗コリン作用関連症状の調査

1 オプトアウトの対象となる方

臨床研究承認日から 2029 年 3 月 31 日までに、株式会社杏林堂薬局で処方せん調剤を受けた方

2 研究の目的・方法・研究期間

【研究目的】

抗コリン作用を持つ薬は、排尿障害や精神疾患など、さまざまな病気の治療に使われています。しかし、こうした薬は、中枢神経や身体に有害な影響を与えることが報告されています。特に高齢者では、認知症機能の低下や、転倒のリスクが高まることが知られています。また、排尿しづらくなる、便秘などの抗コリン作用関連症状も起こりやすくなります。

さらに、高齢者や慢性疾患を持つ方では、複数の薬を同時に使うこと（ポリファーマシー）によって、抗コリン作用が重なり、抗コリン作用関連症状のリスクが高まる場合があります。このため、抗コリン作用の影響を正確に評価できるツールが求められています。

本研究では、1 か月以上継続して医薬品を服用している 18 歳以上の方を対象に、その処方内容を基に、日本版抗コリン薬リスクスケールや Yamada-Anticholinergic Burden Scale (Yamada-ABS)、Anticholinergic Drug Scale (ADS) などのリスクスケールを用いて算出された総抗コリン薬負荷と抗コリン作用関連症状との関連性を調査します。

【研究方法】

株式会社杏林堂薬局の薬歴情報を用いて、被験者情報（年齢、性別、現病歴、既往歴、処方内容、併用薬、抗コリン作用関連症状、その他有害事象）を収集します。

【研究期間】

2024 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日まで

3 利用又は提供する資料・情報の種類（診療記録等）

株式会社杏林堂薬局で処方せん調剤を受けた方の薬歴情報及び薬歴に記録された抗コリン作用関連症状調査票を用いた副作用情報を使用します。

4 個人情報の保護の方法

被験者の方のプライバシーに細心の注意を払い、被験者情報は、氏名など個人を特定できる情報と関連づけできないように加工した上で使用します。被験者の方の氏名などの個人情報が外部に公表されることはありません。

5 他の機関へ情報等を提供する場合の方法

他の機関へ情報等を提供することはありません。

- 6 試料・情報を提供する機関及びその長の氏名
該当しません。
- 7 利用又は提供を開始する予定日
本研究が本学学長によって承認された日から開始します。
- 8 研究責任者の所属・氏名
静岡県立大学薬学部・内田信也
- 9 あなたの求めに応じた試料・情報の提供の停止
被験者の方又は被験者の代理の方が、この研究のために測定結果が使用されることにご了承いただけない場合は、照会先までご連絡ください。
- 10 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先
その他、この研究に関するお問い合わせ、苦情等がありましたら、下記へご連絡ください。

静岡県立大学薬学部実践薬学分野 内田信也

電話代表 054-264-5237